

松戸市立総合医療センターで作業療法を実施された患者さんおよびご家族の方へ

研究課題

「植皮および皮弁の術後管理を目的としたスプリント装具療法の有用性」（倫理審査番号 R5-22）

この研究は、通常の診療で得られた記録を使って行われます。研究結果は論文及び学会等で発表される事がありますが、その際も個人を特定する情報は公表しません。

1. 研究目的

当院は3次救急指定病院であり、熱傷や外傷患者に対して依頼に応じてリハビリテーションを提供しています。植皮や皮弁の適応となった患者さんは術後にシーネ固定による患部安静を保ちます。しかしながら関節部（肩関節や肘関節）に患部が存在する場合、その固定は難渋し、病棟管理も難渋することが多いです。抑制器具や砂嚢などを用い、体動を制限しながら患部の安静を優先させることとなります。拘縮や廃用症候群などの二次的合併症を伴う場合があり、局所の機能改善に加え全身的な廃用症候群の予防においてもリハビリテーションを必要となります。

植皮や皮弁術後のリハビリテーションにおいてはその疾患特性から個別性が高く、症例報告も多くない現状にあります。植皮や皮弁が生着するまでは安静が優先されるため、リハビリテーション介入が少なくなっている事が要因であると思われます。

スプリント装具療法においては整形外科や脳卒中などの中枢神経疾患において多くの症例報告がなされており、その適応と認知度も高いです。しかしながら形成外科領域における装具療法の導入は稀であり、作業療法分野での報告も非常に少ないのが現状であります。

当院で入院し、皮弁や植皮後に作業療法において装具作製を実施された患者さんを対象に、その装具の有用性（生着、術後安静管理の簡便化、廃用予防など）を検討していきたいと考えています。

2. 対象及び方法

対象：当院で入院し、皮弁や植皮後に作業療法において装具作製を実施された患者さん

方法：後方視的に診療録を参照

3. 調査期間

調査期間：臨床審査承認後～2023/12/31

研究期間：臨床審査承認後～2024/12/31

4. 調査内容

・基本情報

生年月日、年齢、性別、転帰先

・医学的情報

現病歴、診断名、手術記録、術後経過、診療記録

・リハビリテーション評価

身体機能評価、ADL 評価(FIM 運動項目)、装具作製の経過、リハビリテーション経過

5. 情報の利用拒否

本研究の対象となる可能性のある方で診療情報等を研究に利用されることを希望されない場合は、下記の連絡先にお問い合わせください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

6. 研究者

川村 慶（松戸市立総合医療センター 作業療法士） 代表研究者

7. お問い合わせ先

本研究にお問い合わせがありました以下の連絡先までご連絡ください。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報および知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書および関連資料を閲覧することができますのでお申し出ください。

【照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先】

研究責任者

松戸市立総合医療センター リハビリテーション科

川村 慶

連絡先：047-712-2511（代表／平日 8 時 30 分から 17 時対応可）